

『原発は終わった』の感想

友人の大澤佳子さんが、拙著をお知り合いの柳久江さんと田中民恵さんにご紹介くださいました。そして、お二人がご感想をくださいました。ご了解をいただきましたので、感謝を込めて掲載させていただきます。

筒井哲郎先生

私は新聞、テレビの情報のみによる判断でしたが、従来から
原発は反対でした。

この度、ご本「原発は終わった」を読む機会を頂き、原発事故の
被ばくによる深刻な被害、あと始末の不可能といえる程の
諸問題を具体的に拝読し、より原発に頼らない国に向う
べきと確信しました。

発電産業は、代替手段が無いわけではなく、世界の潮流は再生
可能エネルギーの普及に向っていること、
行政が特定の産業を育成
を後押しすることは、自由競争を妨げ、ガラパゴス産業を育
てることに他ならない、武力攻撃、テロなどの想定など
原発のリスクは私の想像以上のこと、知りました。

筒井先生のご調査、研究、ご意志が多くの人々に届き、世論の
カが日本の方向を動かしますよう願います。

二〇一八年三月三日

柳 久江

「原発は終わる」を讀んで。

旧知の大澤さん。この本を讀んでおくと、渡されたのが「原発は終わる」でした。

執筆者 筒井哲郎氏はフロント設計などの業界の方でありながら、原発業界の中におられる方とは違っていて、客観的に「原発」についておられ、私のように普通の主婦にも分かりやすいものでした。当然、専門的な細かい部分もありましたが、理解が難しいというよりも、苦痛はしなかったが、ちゃんと読破してしまいました。

「原発は終わる」というタイトルはごくまっとうだが！7年前の大震災と、それと讀く、福島原発の爆発、やらせやらせ、たぐ「ウセ」とテレビ画面を過し、見続けたおりました。「絶対の安全」など、ありえない、原発は終わらせなければならぬと、頭が痛く、月に感じ一人の主婦にとって、難しいこともわかりやすく書かれています。納得のいくものでした。

「水」も「せんじゅ」も、六ヶ所村も、皆、うまいこといっていい。福島原発は原子炉の中にも、調子がよく、放射線廃棄物は「死」と、禮の上かきばかりです。

更に、この本を讀んで、知った、下請のピロミッド構造の巨大さは異常です。放射能(汚)はその最下段の

労働者の受付けという点に於て然らざらん。著者の
取材の二著常に現下が下かりす。

米稼働原発は5年ごとの北河とか、トルコの原発輸出の
計画に莫大の費用がかかるとか、イギリスの原発閉鎖
に近づき、一体何を考へておられるのか。

何か巨大な利権構造でもあるのか政府の前のめり
姿勢は改めようではないか。

水、風、太陽光と、再生可能エネルギーを
小さな単位で地域で分散して作るというコンセプトが、
東京の電気を福島で作るといった方針より、
リスクを減らせる。と述べられておられる。

田中民恵